

◆千葉県議会議員(浦安市選挙区)・矢崎けんたろう議会報告

森田県政最大の課題

平成20年度末の県債残高2兆5731億円。県民一人当たり42万2千円。巨額の借金で財源不足を賄う経営体質の抜本的な改善を！

堂本県政が幕を閉じ、千葉県は新たに森田健作知事を迎え、今まさにスタートを切ろうとしています。

ご存知の通り、千葉県は長年にわたり、財源不足を起債で補う借金財政が続いています。財政の建て直しなくしては、県民の生活を守ることができないと私は考えており、大型公共工事より、生活に密着した施策を優先すべきと、ハツ場タムの中止などを求めてきました。

次の議会では、森田知事の施策を盛り込んだ補正予算が、議会に提出されます。慎重に審議していきたいと思えます。

◆◆◆予算委員会質疑

東葉高速鉄道に、いつまで税金を投入し続けるのか。

話は、遡りますが、堂本知事最後の議会の報告をいたします。

まず、予算委員会では、県の財政を圧迫している要因の一つである東葉高速鉄道の経営状況などについて、質問を行いました。東葉高速鉄道の運賃の高さは、首都圏でも指折り。市民の方からも「運賃が高い」とよくご意見をいただきます。20年度の決算は、7億7千万円の赤字となる見通し。「赤字路線」と

いうと、過疎化などによって利用客が減少したローカル線を思い浮かべる方が多いかと思いますが、東葉高速鉄道の赤字原因は、利用客の少なさではありません。

用地買収や設備投資など開発費による多額の負債を抱えており、単年度の営業収益は赤字であるにも関わらず、返済や利払いなどが、大きく経営を圧迫しています。

東葉高速鉄道は、もはやなくてはならない市民・県民の足となっている訳ですから、破綻させることはできません。国、県、船橋市、八千代市が、出資金・利子補給などで経営を支えています。その集中支援期間は、平成28年まで。その後、本来に経営は安定するのか、その後の経営見通しを聞いたところ、「金利が低利(2〜3%)で推移すれば、10年ごと10%の運賃引き上げをすれば、資金不足は回避できる。5%程度の高金利になると、10%の運賃改定では194億円の資金不足が見込まれる」との答弁。

県議会報告



09/春

民主

【Profile】市立見明川小、見明川中出身。県立市川東高校、駒沢大学を卒業後、現みずほ銀行に入社(16年勤務)。2007年4月民主党公認で県議会に出馬し初当選。千葉県議会環境生活警察常任委員会委員。

<http://www.yazaki-kentaro.jp>

◆◆◆常任委員会質疑

未利用エネルギーの活用やESCO事業の拡大など環境施策の充実を提言

政治は、市民・県民の生活を守るだけでなく、より良い社会を次世代につないでいく役割があります。借金にしてもわかりませんが、未来の担い手に、これまでのつけを負わさないよう環境保全も重要な施策であると考えます。

さらに、経営改善には、民間の活力が大きな効果をあげることがあります。他路線と比較して高い運賃を安易に上げていくのではなく、さまざまな手法・アイデアで収益を確保する経営手腕が東葉高速鉄道には必要です。

現在の東葉高速鉄道の役員は4人(平均報酬1094万※18年度)。うち1名は、県のOBで社長を務めています。県のOBを経営のトップに据えるメリットが、私にはどうも見えてきません。優秀な公務員として実績があるとは思いますが、破綻しかけている企業の経営を担う経験や手腕があるのか、疑問が残ります。

世間では、「渡り」や「天下り」に批判が集まっています。公平性を保つ意味でも、透明性を確保する意味でも、広く人材を募る公募型にするよう再度要望しました。

実際に、どんな効果があったのか、CO2の削減量や光熱費削減金額、発電量など、こうした事業の成果を数値で示し、市民・県民、企業などの理解を得るよう引き続き提言していきたいと思えます。



県議会

予算案などで論議

千葉県議会2月定例会が、1月28日から2月26日までの30日間にわたり開催され、来年度予算案などが審議された。2月3日に行われた民主党の代表質問では、小泉文人議員が登壇した。



小泉文人議員

予算案のウソ

はじめに小泉議員は、堂本暁子知事に、来年度予算についての思いを尋ねた。堂本知事は、「2009年度当初予算は骨格予算として編成した」とし、「人件費や社会保障費は引き続き増加する一方、企業庁からの借入れが望めないことなどから、依然として厳しい財政状況」の中で、経済・雇用対策や福祉・医療の充実など、喫緊の課題に対しては的確に対応したと答弁した。

企業庁の収支見直しを見直しへ

続いて小泉議員は、2012年に事業を終了させる千葉県企業庁の土地造成整備事業について、「昨年9月以降、大きく経済状況が悪

化してきているが、土地分譲等の状況はどうか」と問うた。白戸章雄副知事は、「今年度の土地分譲等については、昨年度から交渉を進めてきた浦安地区住宅用地など約71ヘクタールの分譲等を見込んでいた。しかしながら、昨年9月以降、急激な経済悪化を受け、工業用地等では企業の設備投資意欲の減退などにより企業からの引合いが減少しており、住宅用地についてもマンション等の需要の冷え込みから住宅事業者の応募が減少するなど、厳しい状況である」とし、「樂觀できる状況ではない」と答弁した。

小泉議員は、「収支見直しを早急に見直すべきと思うかどうか」と再質問。白戸副知事は、「急激な経済悪化に伴い、今後、分譲収入等への影響が少なからず見込まれることから、収支見直しの見直しが必要」とし、「できるだけ早期に、現況に即した収支見直しを策定していく」と答弁した。

三番瀬の今後は?

小泉議員は、「三番瀬の今後の望ましい姿について、堂本知事に伺いたした。



堂本知事は「三番瀬の埋め立てのような大規模な公共事業を中止し、計画段階から住民参加のプロセスを大切にする新しい取組みは地域づくりの『千葉モデル』として評価されてきたと思う」とし、「(三番瀬の)生物の多様性が回復し、漁場が再生され、生物と人間との共生の場を目指し、『ラムサール・スポット』に指定されるのが理想」と答弁した。

那覇市立病院

1月15日、那覇市立病院に視察で伺いました。全国各地で地域医療の中核的役割を果たしてきた自治体病院ですが、医療制度改革や地方財政の悪化を背景に、地方財政の圧迫要因である地域医療病棟の経営から手を引く自治体が増えています。



那覇市立病院

視察報告

その中で、那覇市立病院は、いち早く自主性の高い経営ができる地方独立行政法人に移行して、成果を出しています。多くの病棟で医師不足が言われる中、視察も行いました。(石井寛)

更に、小泉議員は、「(知事は)今後の三番瀬の選択は県民に委ねると言っているが、それでよいのか」と質したところ、堂本知事は、「(三番瀬再生の)事業には既に多くの予算を使い、漁業補償についても解決した。調査や護岸工事などが進んでいる中で、(今度の知事選挙で)埋め立てをしようという方がいた時に、県民がどのような選択をするかは十分に見守っていかねければならないが、千葉県民は意思をすぐ変えるような県民ではないと、私は固く信じている」と答弁した。

堂本知事、次期知事選挙に不出馬

杉田議員の一般質問に答える

2月6日の一般質問で、民主党の杉田守康議員は堂本暁子知事に、タウンミーティング『千葉なのはな県民会議』の実施や、障害者条例の制定、土地収用委員会の再建、三番瀬における漁業補償問題の解決など2期8年間の実績をあげながら、「2期目の任期終了を迎えるが、今後への思いを伺いたい」と、3月の知事選挙に向けての堂本知事の進



杉田守康議員



堂本暁子知事

退について質問した。堂本知事は、「千葉県には、房総の美しい自然、全国有数の産業力、世界に開かれた成田空港など、全国に誇ることができる地域の『ちから』から、新しい時代を切り拓いていこうとする610万県民の『ちから』があります」とし、「プレーメン型地域社会づくりのモデル事業』などを引き合いに出しながら、「千葉県では既に、県民自ら

が多様な『ちから』を活かした地域づくりを進めています。この歩みを決して止めてはなりません」と前置きをしながら、「こうした流れの中で、『県民一人ひとりの幸せ』を実現してくださると信じている方に、このほど正式に次の知事選への出馬を要請しました。良い返事を得た場合は、私も一人の支持者として全力で応援していきますと答弁し、事実上、次期知事選挙への不出馬を宣言した。

県議会 民主党 所属議員



田中 明 (船橋市)



黒田 雄 (千葉市花見川区)



河野俊紀 (千葉市美浜区)



杉田守康 (市原市)



湯浅和子 (松戸市)



田中信用 (千葉市若葉区)



堀江はつ (船橋市)



竹内圭司 (千葉市緑区)



小泉文人 (市川市)



花崎広毅 (我孫子市)



高木 衛 (市原市)



岩井 覚 (八千代市)



横堀喜一郎 (茂原市)



天野行雄 (千葉市稲毛区)



遠藤英喜 (松戸市)



石井宏子 (君津市)



篠崎史範 (鎌ヶ谷市)



矢崎堅太郎 (浦安市)



布施健太郎 (習志野市)



高松健太郎 (柏市)



磯部裕和 (野田市)